


森と命を繋ぐ野生動物の歩道橋「アニマルパスウェイ」の開発・普及・一般化

取組開始時期	2004年1月	取組の カテゴリー	環境対策	応募部門 (○を付ける)		PF会員間連携部門	○	一般部門
--------	---------	--------------	------	-----------------	--	-----------	---	------

1. 団体名	一社) アニマルパスウェイと野生生物の会	2. 連携先の 団体	アニマルパスウェイ研究会（大手ゼネコンなど）、ニホンヤマネ保護研究グループ、一社) ヤマネ・いきもの研究所、大学等研究機関、◎環境省、◎山梨県北杜市					
--------	----------------------	---------------	--	--	--	--	--	--

3. 取組 目的	道路などの連続するインフラストラクチャーに分断された森林などに生息する樹上性野生動物（動物や昆虫など）の保全のための人工的な歩道橋の開発と普及			4. 関連する ゴール	新規道路、既存道路の分断された森を繋ぐ アニマルパスウェイがどこでも見られる社会の創出	
-------------	---	--	--	----------------	--	---

5. 取組経緯						
道路で分断された森に棲むニホンヤマネは冬眠動物でもあり、開発時に踏みつぶされたり、生息域を失ってしまうとの話があり、ニホンリスも西日本では絶滅に瀕しているところもある。NGOの研究者より、剛性の高いしっかりした横断橋が望ましいがコストが高く普及が進まないとのことで、大手ゼネコン2社がボランティアで助力を申し入れ、廉価で多様な動物が利用できるアニマルパスウェイを2年近くの実証実験を経て開発した。その後自治体の協力などにより公道上に設置し、多くの樹上性野生動物が利用できることが判明、海外に紹介したところ、設置しBBCで紹介された。						

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します						
2004年に経団連自然保護協議会で出会ったNGOと大手建設業2社がアニマルパスウェイ研究会を立ち上げ、実証実験を経て、廉価なアニマルパスウェイを開発し、全国に13基（うち現存9基）、海外1基の設置を支援してきた。リス、ヤマネ、ヒメネズミや様々な樹冠昆虫類などが利用している						

画像（会員投票の際のサムネイル）



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

- ・地域の観光資源としての共生環境の創出（利用動物の映像などを観光客に提供）
- ・市民や未来世代の子どもたちの意識の醸成：生物多様性教育の実践

ステークホルダーとの連携

- ・道路管理者である自治体や国は、ロードキルなどの防止や生物多様性の保全が図られる（自治体レッドデータに掲載される種の保全も図られ、戦略アセスや地域アセスの実施手段となる）
- ・研究者や市民・NGOと、生態系や遺伝子調査を実施し、設置場所の選定や設置後の事後モニタリングによる効果検証が可能

モデル性・波及性

- ・北杜市にて設置が始まってから14年経過し、国内外への論文掲載や発表も行っており、多くの社会的評価を得ている。
- ・SDGsの事例としてもメディアにて多数取り上げられるなど社会的評価も高い、COP26の政府パビリオンなどでも取り上げられている。

7.取組詳細 (取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等)

2004年1月
経団連自然保護協議会が開催

建設業とNGOの懇談会



アニマルパスウェイ研究会の誕生

- ・ニホンヤマネ保護研究グループ
- ・大手建設業
- ・エンウィット
- ・大手通信業

参加・発表

Keyword : Road ecology

海外連携

- ・ IENE (Infra Eco Network Europe)
- ・ ICOET (International Conference on Ecology and Transportation)
- ・ ANET (Australasian Network for Ecology and Transportation) etc

国内連携

2012年5月



- 一般社団法人 アニマルパスウェイと野生生物の会創設
- ・企業の協賛参加 (建設業、コンサルタント会社主体)
 - ・企業社員、OB
 - ・大学研究者 (帯広畜産大、福山大、関西学院大)
 - ・獣医師、一般市民、自治体職員など
 - ・自販機設置支援 (自然公園施設、動物園、企業など)

共催



一社) 北海道開発技術センター
ロードエコロジー研究会

団体会員



NEXCO3社、
研究機関、コン
サルタント、
大学、NGO

道路などのインフラストラクチャーと野生生物についての検討が日本は遅れています。内閣府主導で関係省庁・自治体・民間が横断的に連携願いたい。



「野生生物と社会」学会